

事後評価報告書(国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID))

1. 研究・調査課題名:「東日本大震災におけるヒューマニタリアン・ロジスティクスに関する共同研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 京都大学 大学院工学研究科 教授 谷口 栄一

2-2. アメリカ側研究代表者: レンスラー工科大学 土木環境工学部 教授

José Holguín-Veras

3. 総合評価: 研究・調査の目標及び実施環境にてらして、相応な成果が得られている

4. 事後評価結果

(1) 研究・調査成果の評価について

日米連携の元、比較的早い段階に現地ヒアリングが実施され、震災後に重要となる救援物資輸送のあり方について震災の経験を分析し、提言している。また、提案する多目的配車配送計画モデルの有効性が限定的ながら確認されている。さらに、FEMA のような専門組織が、このような課題に対して有効に機能するか定量的に比較できれば、今後の防災対策立案に有益だと思われる。

一方、近年急速に普及したネットによるコミュニケーションの視点が十分ではないように思える。また、研究成果を今後に生かすためにも、都市の規模と救援物資輸送との関係にも言及すれば、より良い研究になったものと思われる。

(2) その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

研究体制は適切な規模で、かつ時宜を得た論文発表が成されている。

一方、発表された論文と今回の研究プロジェクトとの関係が必ずしも明確に示されておらず、また、報告書からは米国側の具体的な貢献度が分からないなどの点が気になった。

(3) 総合評価コメント

日米連携の元、比較的早い段階に現地ヒアリングが実施され、震災後に重要となる救援物資輸送のあり方について震災の経験を分析し、提言している点は高く評価できる。さらに分析を進め、次に発生が懸念される南海トラフ地震等でその研究成果を生かして頂きたい。